

## ●冬季オリンピック・パラリンピックの招致について

札幌市では、冬季オリンピック・パラリンピックの招致について、市民議論を深めるため、札幌で冬季オリンピック・パラリンピックを開催する場合の費用や効果などについて調査を行いました。このたび、調査結果が取りまとまりましたので、結果を報告するとともに、招致の是非についての市民意見を募集します。

### 1 開催調査結果（詳細別紙）

#### (1) 想定される大会規模

##### ■オリンピック

|         |              |
|---------|--------------|
| 大会期間    | 17 日間（2 月開催） |
| 参加選手    | 2,800 人      |
| 参加国・地域数 | 88           |
| 競技数     | 7 競技 98 種目   |
| 観客数     | 125 万 8 千人   |

##### ■パラリンピック

|         |              |
|---------|--------------|
| 大会期間    | 10 日間（3 月開催） |
| 参加選手    | 550 人        |
| 参加国・地域数 | 45           |
| 競技数     | 5 競技 72 種目   |
| 観客数     | 21 万 5 千人    |

#### (2) 競技施設適合結果

オリンピックで求められる基準等を基に、市内および道内のスキー場や市内の既存施設における各種目の実施可能性を調査。

##### ① スキー場

スキー競技のアルペン・フリースタイル・スノーボードについては、市内のスキー場は基準に適合（コース造成等要検討）。

※アルペンの滑降と複合については、市内スキー場は不適合。道内では富良野スキー場とニセコグランヒラフが標高差の基準において適合（コース造成等要検討）。

##### ② 市内の既存施設

大倉山ジャンプ競技場、宮の森ジャンプ競技場等は適合（要改修）となったが、月寒体育館、美香保体育館、藤野リージュ競技場、真駒内公園屋外競技場の 4 施設は観客席数の不足等から不適合。真駒内公園屋内競技場は、一部の競技について不適合。

#### (3) 開催経費

競技施設建設費や大会運営費など開催に必要な経費は 4045 億円を見込んでおり、そのうち、市が負担する額は 715 億円と試算。

##### ① 試算の前提

- ・具体的な開催計画が未定のため、いずれの金額も他都市の事例などを基に算出
- ・大会の規模は、直近のソチオリンピックや長野オリンピックなどを参考
- ・札幌市の負担額は長野オリンピック等を参考

② 札幌大会 開催経費

|                              | 総経費<br>(A) | 組織委員会<br>などの<br>負担額 (B) | 札幌市<br>負担額<br>(A-B) | 考え方  |
|------------------------------|------------|-------------------------|---------------------|--|
| 競技施設<br>建設費                  | 995 億円     | 741 億円                  | 254 億円              | ○月寒体育館、美香保体育館、<br>星置スケート場、藤野リュー<br>ジュ競技場、真駒内公園屋<br>内・屋外競技場は建て替えを<br>想定<br>○開会式、閉会式の会場は札幌<br>ドームを想定 |
| 選手村・<br>メディア<br>センター等<br>建設費 | 1139 億円    | 907 億円                  | 232 億円              | ○官民が連携して設置し、大会<br>後も活用する方向で検討<br>○選手村は 4,500 人、メディア<br>センターは 10,000 人の受け<br>入れを想定                  |
| 大会運営費                        | 1861 億円    | 1667 億円                 | 194 億円              | ○テレビ放映の分配金、スポン<br>サー収入、入場料などで賄う<br>ことを見込んで試算<br>○長野五輪(1998年)からバン<br>クーバー五輪(2010年)の大<br>会運営費の平均額で算出 |
| 招致経費                         | 50 億円      | 15 億円                   | 35 億円               | ○計画策定費、広報活動費など<br>○長野五輪(1998年)と東京五<br>輪(2020年)の招致費用の<br>平均額で算出                                     |
| 開催経費                         | 4045 億円    | 3330 億円                 | 715 億円<br>(359 億円)★ | ★オリンピックを開催しない<br>場合でも必要となる競技施<br>設など既存施設の建て替え<br>費用 356 億円を差し引いた<br>負担額                            |

※上表の (B) は、民間と連携した施設の設置やスポンサー収入、国・北海道からの財政的な支援などを見込んでいるが、総経費も含め現時点では確定できない要素が多く、市の負担額が試算の金額を上回る可能性がある。

※具体的な開催計画が未定のため、上記の試算には含まれていないが、道路整備などの費用が掛かる可能性がある。

(4) 経済効果など

- ・開催中に訪れる観光客は約 377 万人
- ・大会開催に伴う経済波及効果は道内で約 7700 億円
- ・雇用誘発数は道内で約 61,000 人

## 2 市民意見の募集について

調査結果についてはホームページや広報さっぽろ 10月号に掲載。今後市民アンケートやシンポジウム等で市民意見を募集。結果などを踏まえ、年内に札幌市として招致の是非を判断する。

### (1) 市民アンケート

第2回市民アンケートに冬季オリンピック・パラリンピック招致についての項目を設定し、市民意見を募集。

- ① 調査対象者：住民基本台帳から等間隔無作為抽出で選んだ札幌市全域の18歳以上の男女10,000人
- ② 調査方法：A4判の調査票を郵送し、返信用封筒で回収
- ③ 調査期間：平成26年10月6日（月）～20日（月）

### (2) 冬季オリンピック・パラリンピック招致を考えるシンポジウム～葛西選手が語るオリンピックの魅力～

- ① 日時：平成26年10月6日（月）18：00～20：00（開場17：30）
- ② 会場：道新ビル大通館8階「道新ホール」（中央区大通西3丁目）
- ③ 定員：600人（先着）
- ④ 内容：

スキージャンプ選手の葛西 紀明氏による「一意専心～自分とオリンピック～」と題したトークセッションの後、早稲田大学の原田 宗彦教授をコーディネーターに、各分野から専門家を招き、パネルディスカッションを行う。

### ⑤ 申し込み：

30日（火）までに札幌市コールセンターに電話（222-4894）またはホームページ（<https://www.city.sapporo.jp/callcenter/uketsuke/2014-10-6-winter-olympics-paralympics-syouchi-symposium.html>）から申し込み。

### (3) その他

広く市民から招致についての意見を募集。

- ① 募集期間：平成26年10月1日（水）～20日（月）
- ② 応募方法：

区役所やスポーツ部企画事業課等で配布する意見募集用紙やはがきなどに招致の是非、招致についての意見、性別、年代を記入し、同課（〒060-0002 中央区北2条西2丁目STVビル7階、ファクス：211-3046、Eメール：sports-o@city.sapporo.jp）に送付。ホームページ（<http://www.city.sapporo.jp/sports/olympic/>）からの応募も可。

<参考：2026年（平成38年）大会を想定したスケジュール>

|                |                        |
|----------------|------------------------|
| 2015年～（平成27年～） | 招致に向けた開催計画の策定など        |
| 2017年（平成29年）   | 国際オリンピック委員会に日本の候補都市を申請 |
| 2019年（平成31年）   | 国際オリンピック委員会総会で開催都市が決定  |

問い合わせ先

観光文化局スポーツ部企画事業課 石川

電話：211-3044

観光文化局スポーツ部施設課 都築

電話：211-3045